

1

1 去年
2 安
3 お礼

2

1 ア
2 タンス
3 認知症
4 外れる
5 飲酒
6 小麦

3

1 地味
2 おばし
3 ぐい
4 すきま
5 使う
6 エ

3

1 ウ
2 使う
3 無人島
4 ちよ
5 頭
6 エ
7 イ
8 ア
9 エ

2

1 パツ
2 細か
3 1
4 2
5 頭
6 丁
7 紙
8 2
9 2
10 2
11 2
12 2
13 2
14 2
15 2
16 2
17 2
18 2
19 2
20 2
21 2
22 2
23 2
24 2
25 2
26 2
27 2
28 2
29 2
30 2
31 2
32 2
33 2
34 2
35 2
36 2
37 2
38 2
39 2
40 2
41 2
42 2
43 2
44 2
45 2
46 2
47 2
48 2
49 2
50 2
51 2
52 2
53 2
54 2
55 2
56 2
57 2
58 2
59 2
60 2
61 2
62 2
63 2
64 2
65 2
66 2
67 2
68 2
69 2
70 2
71 2
72 2
73 2
74 2
75 2
76 2
77 2
78 2
79 2
80 2
81 2
82 2
83 2
84 2
85 2
86 2
87 2
88 2
89 2
90 2
91 2
92 2
93 2
94 2
95 2
96 2
97 2
98 2
99 2
100 2

おばあちゃんがダンスとれいぞうこを
まちがえて入れてしまったから。

(同意可)

配点	
1・2・5・3	各2点×13=26点
2	2点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1

- 1 「去」の四画めと五画めをつなげて書かないように。
- 2 「安」の二画めと三画めをつなげて書かないように。
- 3 「札」と字形が似ているため、まちがえないように。
- 4 送りがなもおぼえておこう。
- 5 「飲」の左がわが「食」ではないことに気をつけよう。「酒」の右がわも「酉」ではない。
- 6 「麦」の二画めと五画めをつなげて書かないように。

2

- 1 「もうそのことはいい」とは、過去のことはゆるそう、ということである。ウの「わすれていること」は過去のことでなく今のことである。
- 2 この問いそのものが、文章全体の理解を深めるための誘導になっている。「やっぱり杏のプリンを食べたことなんてわすれていまず」など、おばあちゃんが認知症であるということをもとに読み直すと、初読時よりもずっと理解が深まるはずである。Iは後の場面でおばあちゃんのダンスの引きだしからプリンが見つかった。II・IIIは、ママの「ダンスとれいぞうこをまちがうことがあるって、本で読んだのに、うっかりしてたなあ。」という発言から、これがおばあちゃんの行動の説明であり、この行動は認知症による影響の一つであると分かる。

- 3 ママがゆびさしている服は直前にあるように「新しい服」である。その色にふれているところをさがそう。
- 4 ◎の文そのものを手がかりにする。Xは「：がつまった」、Yは「：ような気がするため、すててほしくない」がそれぞれ手がかりになる。空らんの前後のことばに目をつけ、それに近い表現を本文からさがすのは定石である。

- 5 A「ちぐはぐ」はふぞろいであること。B「あいまい」ははっきりしないこと。C「元気はつらつ」の「はつらつ」はもともと、魚が元気よくとびはねるさまを表す。
- 6 ママはきれいな色の服をすてる理由について、「おばあちゃん、自分で服えらんだらおかしな組みあわせになるし。わたしが毎朝手伝うの、大変なのわかるでしょ」「せんたくは、かんたんにできるほうがいいでしょ。あと、ぬいだり着たりも、楽なほうがいいのよ。おばあちゃん、うでが上がりにくいみたいだから」と発言している。それをうけて、「ママのいうことはわかります」と続いている。ママのいうことは理にかなっており、おばあちゃんの世話をするためにはそのほうが色々と便利なのである。理にかなっていることを「合理的」であるという。

- 7 Iは直後の「ねだんが高い服なら、ママもためらうかなあとと思って」からIに決まる。IIは「すてきな花柄のブラウス」を手になっている杏へのママの返事を入れる。ウの「それ」という指示語は話し相手の手近にあるものをさすときに使う。ママが杏の手になっているブラウスをさして「それ」といっているのである。IIIはそのママの発言に対する杏の反応であるからAになる。IVはママが「やわらかい生地のスカーツ」を手にしていったことである。「これ」という指示語は自分の手近にあるものをさすときに使う。ママが自分の手にしているスカーツをさして「これ」といっているのである。

3

- 1 Iは文末の「から。」でウに決まる。「なぜなら」に類する、理由説明の言い回しである。II「人それぞれ書く文字にはクセがありますし、数字を読みちがえられてしまったら大変」だから「だれもが判別できる『1』から『9』までの数字を書けるように：」というつながり。III「もつたいないなあ」でも「：必要な作業なんです」というつながり。

- 2 次の段落の「でも」の前後で「無人島」と「経済社会」の対比になっている。無人島では使うところがないため、おかねに価値を見出せないが、私たちの住む社会では使う場所があるため、価値を感じるのである。
- 3 2の解説を参照。「でも」や「ありません」に対する「あるからなんです」など、対比を示す目印には注目するクセをつけておこう。

- 4 本文全体の話題が、第一段落で述べられていた「おかね自体には価値はない」ということであるのがポイント。「おかね」についていったい何なんでしょう」という問いに対する答えも、「それそのものには価値がないもの」という方向性になるはず。
- 5 A「くじら」など、人間より大きな動物は基本的に「頭」でかぞえる。B「とうふ」は昔、二つで一丁とかぞえていた。一つは半丁であった。「丁」には偶数という意味がある。

- 6 長い熟語の省略は、「特急（＝特別急行）」「国連（＝国際連合）」などたくさんある。本文中にある「経済」も「経世済民」の略である。
- 7 2と同じく、空らんの前後を手がかりにする。Iは「大量の：」「運ばれている」が、IIは「もう使わないお札」「：する」が、それぞれ手がかりになる。

- 8 Iは「何の価値もない」が言いすぎである。「おかね自体には価値はない」が、経済社会に生きる私たちはその紙に価値を見出している。「切りぎざむ」のはもう使えないときなので、「何の価値もないため切りぎざんでよい」という因果関係もおかしい。II「日本の中央銀行」は「日本銀行」であるため、正しい。III「数字を正確に書く練習」を筆者は行ったが、それを人々が行うべきであるという意見を述べているわけではない。「小学生」という語も「：小学生でもすらすら書けるよ!」のどこにあるだけである。ただ本文に書かれていることばが含まれているからといって、内容として正しいと判断してはならない。

以上